



放課後等 デイサービス みつばち

支援プログラム

理念 「共に生きる」

- ・私たちは、障がいのあるなしに関わらず、どんな人も幸せに暮らせる社会を目指します。
- ・共に生きる社会・地域を目指した「まちづくり」を行います。
- ・その現実に向け、必要不可欠なもの。その地域に根差した未来ある子どもたちの教育です。
- ・放課後等デイサービスみつばちは、未来ある子どもたちへの支えとなる施設です。
- ・それぞれの子どもたちの個性を認め、お互いの違いを尊重し、助け合い、分かち合いの精神を養います。
- ・根底にあるものは、「やさしさ」であり、ひとりひとり違って大丈夫。すべてのひとがやさしさをもって接します。
- ・ひとりでは生きてはいけない。そのための社会性を身につけます。時には我慢や忍耐力を覚える必要もあります。
- ・その基礎となる「やさしさ、思いやりの気持ち」を学び、人間力を身につけられるよう支援していく施設です。

すべてのひとにやさしい支援プログラム

- ・ひとりひとりの個性を尊重し、安心・安全を分かち合える場としての施設を目指します。
- ・夢や希望を持ち、または持てるように子どもたちに寄り添い支えながら、共に未来へ歩みます。
- ・子どもたちのアイデンティティの確立を支え、「自分は必要とされている」と思える施設運営を行います。
- ・地域との関わりを持ち、社会の一員である認識を養います。ルールを守る大切さを学ぶ支援をします。
- ・「ありがとう」を心から言える環境を目指し、またそういう気持ちを養う支援を行います。
- ・ひとりになりたい時は、誰にでもあります。我慢しすぎない、つらい時は無理をしなくて大丈夫です。
- ・気持ちを伝える難しさを学び、コミュニケーション能力を養う支援を行います。

情報化社会への適応支援プログラム

- ・情報化社会の現代における多様化したコミュニケーション手段を学ぶ機会を作ります。
- ・パソコン、スマホ、タブレット等、ネットワークを扱う媒体の適応力を養う支援を行います。
- ・子どもたちの興味のあるゲームや音楽など遊びからも「学び」につながるファシリテートを行います。
- ・Eスポーツやネットを使ったゲームなどコミュニケーションを必要とする活動で対話の必要性を養います。
- ・将来の職業につながるようなパソコンスキルやプログラミングなどの支援も行います。
- ・施設外からの特別講師を招き、社会性を身に着ける活動にも積極的に取り組みます。
- ・情報やITスキルを持つひとと持たない人による「違い」を認め合い、助け合う精神を養います。

おわりに

世界は今、新型コロナウイルスのパンデミックやロシアとウクライナの戦争、日本でも大きな地震や災害など、世界中の誰もが気が滅入りやすい環境下にあります。

ひとはひとりでは生きていけないし、自然災害やパンデミックなど自分の力ではどうしようもないストレスも抱え日常生活を社会の中で生きています。

わたしたちはそれぞれ大切なひと・家族がいます。それは小さなコミュニティかもしれませんが、それぞれの家族が寄り添い、コミュニティが大きくなり、社会が出来上がります。

社会で共に生きるなら、すべてのひとが幸せであることが理想です。今、上記したような現象で世界中がパニックに陥りやすい状況ですが、そんな社会でも未来ある子どもたちが幸せな社会で暮らせるように、今、大人であるわたしたちが、責任ある行動・教育や支援をする必要があります。

「共に生きる」 わたしたちは、この言葉を胸に刻み、すべてのひとの幸せな社会を目指し活動していきます。

放課後等デイサービスみつばち

施設長

佐藤憲吉

他、スタッフ一同